

# とらいあんぐる



2019年7月・8月

一音会ミュージックスクール発行

## 「ひらきなおる」

私の母は心配性な人で、細かいことに心配をつらせる人でした。

特に、病気に関しては過剰な心配をしました。

私が子どもの頃、おなかが痛いとか、熱がある、といったことがあると、いちいち大さわぎになりました。

私の姉は、実際に風邪をこじらせて命を落としていますから、「子どもは病気で死ぬことがある」と、すりこまれていたのです。

その一方で、ケガに関しては、母は

なんだかとてもんきでした。

同じ痛みでも、病気由来か、ケガ由来かで、全然、対応が違うのです。

子ども時代の私は、よくころんでヒザをすりむいていましたが、母はあまり気にとめている様子がありませんでした。

私にとっては、おなかが痛いと同じくらいつらいのですが、母の対応は、同じ人とは思えないほど冷淡に思えました。

それは母自身が大きな病を抱えていたことと無関係ではなかったと思います。

20代で不治の難病にかかった母は、全身の関節が変形していました。病気は進行性で、変形は激痛をともないました。

身体のあちこちに常に強い痛みがあり、常に熱がありました。血液検査をすれば異常値ばかりでした。

健康な人にとっては、「どこも悪いところがない」というのがスタンダードです。

そうでないところがあれば、そこに関心が集中します。痛いところや悪いところが気になって、「どうやったらよくなるだろう」と、気になってしまいます。

症状がやむことがない病を抱える母にとっては、あちこちに強い痛みがあることがスタンダードでした。

治すことのできない病気ですから、「どうやったらよくなるだろう」というのは、考えるだけムダです。

母の病気は、「長く生きることは難しい」ともいわれていました。

関心があるのは、生きるか死ぬか、

だけでした。

実際、「そのくらいじゃ死なない」と、母はよくいいました。

ころんでヒザをすりむいて、痛みと驚きで私があわてていると、母は「足の1本や2本、なくなったって死なない」といいます。

冷たいようですが、死ととなりあわせの病を抱える母がそれをいうと、絶大な説得力を発揮します。

それをきいて私は「そうか、死なないのか・・・」と、すごくほっとするのです。

私は小さい頃、「この子は痛みには強い子ですね!」と、よく医者に驚かれました。

思えば、ケガで泣いたことはありません。注射で泣いたこともありません。注射は一瞬なので痛みのうちに入らないと思っていました。

おそらく母のケタ違いの痛みを間近で見すぎて、私のスタンダードもおかしくなっていたのです。

この「そんなことじゃ死なない」は、

別の場面でも発動します。

私が、困ってオタオタしたり、追い込まれたりしている時、決まって発せられるセリフでした。

たとえば発表会の出番直前です。

子ども時代の私は、気が小さく、すごく緊張する子どもでした。

緊張がつのって、ちょっとしたパニックをおこしています。

「失敗したら、どうしよう・・・」

母に不安をうったえます。

母の返事は、いかにも母らしいものでした。

「だいじょうぶ。失敗しても、死なないから」

断言です。

それをきいて、私は何かがストーンとおこちたように、簡単に納得してしまいます。

「確かに・・・」

「失敗しても、死なないんだあ・・・」

そっかあ・・・」

「失敗してもいいや」と思えます。

そればかりか、「何もこわくない」と

いう気になっています。

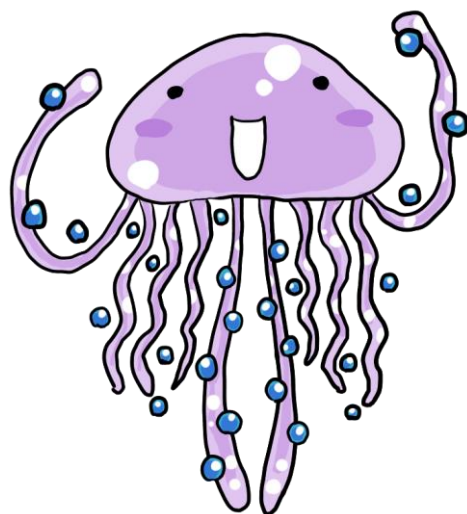
ピアノをとんでもなく間違えても、もしかしたら全然弾かないでお辞儀だけしてひっこんでしまっても、誰も私を殺さないと思います。

「そうだ、お辞儀だけして、ひっこんじゃおうかな？」

「あ、でも、せっかく練習したから、ちょっとだけ弾いて、分からなくなっちゃったら、すぐやめて、ひっこんじゃおう。うん、そうしよう」

「ちょっとイヤな顔されるかもしれないけれど、そんなのどうってことない」

「だって、死なないんだもん！」



手足のふるえは、いつしか止まっていた。  
いました。

安心して、足を前に踏み出すことができます。

そして、案外、そんな気分の時は、失敗しないものなのです。不思議です。

以前に、舞台袖で「送りだし係」をしたことがあります。出演直前の生徒さんに、舞台での動きを簡単に説明し、出番のタイミングを伝える係です。

「どうしよう、どうしよう・・・」と、緊張でおろおろしている生徒さんに、私はかける言葉を探していました。

さすがに「失敗しても死なない」とはいえません。

私は、思いがけないことを口走っていました。考える時間がなかったのです。

「もしね、失敗したら、次の部に出してあげる。お客さんは全員、入れ替わるから、誰も気がつかない。そこでも失敗したら、明日の一部に出してあげる。失敗したら二部。うまくいくまで、何度でも出してあげる」

「え！ そんなことできるの?!」

その子は、びっくりした顔で、ききかえました。

「うん、約束する。行っておいで。安心して失敗しておいで」

ああ、「失敗しておいで」は余計だったなあと後悔している私をよそに、その子の背中には迷いがありません。

私は、その時、本気で次の部に出してあげるつもりでいました。口が勝手にそういつてしまったからです。

しかし同時に、そうならないだろうと確信していました。

もちろん、そうならなかったのは、いうまでもありません。

良い演奏でした。

(江口 彩子)



## ◆もうすぐ「ピアノ発表会」です

7月13日(土)より、「ピアノ発表会 しおり」と「ピアノ発表会 プログラム」をお配りしています。主担当の先生からお渡しするようにしていますので、まだお手元がない方は、主担当の先生にお声かけください。

入場は無料です。1年に1度の大きな晴れ舞台ですので、ご親戚の方やお友だちにも、ぜひ広くお声をかけてください。

ピアノ発表会は、下記の通りです。

8月2日(金)・3日(土)・4日(日)・5日(月)  
かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール  
(京成線「青砥」駅より徒歩5分)



たくさんの生徒さんにお申し込みをいただきました。お忙しい中、ご参加をお決めくださったことに、深く感謝しています。

8月3日（土）と4日（日）の第2部は、特に多くの生徒さんがお申し込みくださいました。そのため、当初の想定よりも長くなることが予想されます。通常は、ご出演の部の最初からご覧いただくことをお願いしていますが、3日（土）と4日（日）の第2部に関しましては、ご自身の出演までかなりお待ちいただくことになる方もいらっしゃると思います。ご出演順が後の方の方は、ご自身の出演時間をみはからい、ご負担のない時間にお越しいただければけっこうです。

部の中でのおよその進行時間の目安を、「発表会のしおり」に記載させていただいています。ただし、お一人お一人の演奏時間の見積もりはおおよそであり、これから演奏順の変更も生じ、時間は少し前後すると思われます。出演20分前には舞台袖にお集まりいただかなくてはならないことも考えますと、1時間ほどの余裕をもって、会場にお越しいただきますことをお願いいたします。

後にご予定をひかえてお急ぎの方は、第2部の中で、はやい演奏順に変更することもできます。演奏順につきましてのご相談は、本部にご連絡ください〔本部：03-5966-7711〕。

## ◆「ピアノ発表会」のリハーサルについて

発表会当日にリハーサルのお時間を作れないかわりに、7月に入り、リハーサルに相当するレッスンをおこないます。

ピアノ発表のリハーサルとしましては、「ヘンデルはうす」で「リハーサル・トライ」をおこないます。リトミック発表、「ドレミのうた」発表のリハーサルは、「ひびきホール」でおこないます。

いずれも、発表会にご参加くださる生徒さんは、無料です。ぜひ、リハーサルの機会を利用して、お気持ちも準備してください。

「リハーサル・トライ」は、いわば「ミニ発表会」です。知らない生徒さんやご家族の前で発表する機会は、リハーサルとして必要です。

「リハーサル・トライ」には、経験豊かな先生がつきそい、進行にあたります。進

行役をつとめる先生は、普段のピアノ担当先生に、お一人お一人の生徒さんについて、連絡を入れています。すべての生徒さんが、少しでもすてきに演奏できるよう、すべてのスタッフが一丸となっています。もし演奏に改善点があった場合には、担当の先生に連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて混乱させることはありませんので、ご安心ください。

リトミック発表は2日、「ドレミのうた」は1日、リハーサルの日をもうけています。

すでに、7月15日（月）に、1回目のリトミック発表のリハーサルをおこないました。3連休の最終日、雨が降ったりやんだりのあいにくのお天気だったにもかかわらず、たくさんの生徒さん、ご家族の皆さまに足をお運びいただきました。ご協力、ありがとうございました。

リトミックの発表の日は、もう1日、ございます。また「ドレミのうた」のリハーサルは、実質、この1日です。ぜひご都合をつけて、おこしてください。

### 7月28日（日）

ひよこちゃん	14:30～15:30
きりんさん	15:30～16:30
ドレミのうた	16:30～17:30
リトミック・アドバンス	17:30～19:00

場所 ひびきホール  
(豊島区南長崎 5-8-12)

「ひびきホール」は、西武池袋線「東長崎」駅、南口より徒歩7分、「まいばすけっと」の3階です



生徒さんとご家族の皆さまが、発表会のためにご努力くださったことに応える、最高の会にしたいと思っています。スタッフ一同、当日までの時間、ギリギリまで、全力で指導にあたらせていただきます。ご不安なことがあれば、ご遠慮なくご相談ください。一緒に乗り切りましょう。



#### ◆「ピアノ発表会」にご協力をお願いいたします

「ピアノ発表会」では、すべての生徒さんにすてきな演奏をしていただくことが大きな目標ですが、それ以上に重要な目標として、事故やトラブルなく、無事に進行させるということがあります。

生徒さんが舞台上がるまで、また演奏を終えてご家族のもとに戻るまで、誘導には多くのスタッフを配しています。小学校3年生以下の生徒さんは、演奏後、ご家族の方にお迎えにきていただくことをお願いしています。事故を防ぐため、原則として、お一人でおかえしすることはありません。ご家族の方がお迎えにいらっしゃらない場合、いつまでも舞台袖でお待ちいただくことになってしまいますので、ご注意ください。4年生以上の生徒さんも、演奏後、どのようにご家族の方とおちあうか、取り決めておくことをお願いいたします。

舞台裏や舞台そでは、たくさんのスタッフがいるのですが、案外、スタッフの目



が届きにくいのが、客席です。スタッフも、客席を見まわるようにしていますが、やはりご家族の皆さまのご協力が不可欠です。会場で不審な人物を見かけた場合には、会場のスタッフにご連絡ください。

また、昨年同様、客席の一部を「撮影ゾーン」として、ご家族の方が演奏の撮影をおこなっても良いエリアを設けます。「撮影ゾーン」以外のエリアは、教室で制作するDVDのカメラにうつりこんでしまう危険性があるため、撮影をお控えいただけますよう、お願いいたします。撮影を予定されている方は、事前に「撮影ゾーン」にご着席いただくか、演奏の合間にすみやかにご移動ください。ご協力をよろしく願いたします。

その他、当日、ご不明なことがありましたら、遠慮なくスタッフにおっしゃってください。一音会Tシャツを着ている者はすべて、ご対応できます。

### ◆皆さん、元気に舞台に上がれますように

こここのころ、ご病気でレッスンを欠席される生徒さんが相次いでいます。

胃腸炎も大流行していたようで、冬でもないのに学級閉鎖になった学校もあったとききます。

毎日、コツコツと練習を重ねていただいておりますが、その成果を発揮するのは、1年にたった1度です。お一人も欠けることなく、すべての生徒さんが舞台に上がれますことを願っています。

普段以上に、体調管理に気を配ってください。おケガも心配事の1つです。危ないことをなさらないよう、気をつけてお過ごしください。



## ◆「音楽の集い」を開きます

秋にはおとなの方の発表会「音楽の集い」があります。

11月3日(日)、場所は「ひびきホール」です。まだ先のことに思えますが、夏休みが終わりますと、もうすぐです。夏休みを利用して、ご準備に入ると良いと思います。

例年、うれしいことに、夏のピアノ発表会と「音楽の集い」、両方にご参加くださる方もいらっしゃいます。大きな舞台とアットホームで自由な舞台、それぞれの楽しみがあります。ぜひ積極的にご参加ください。

一音会でレッスンをお受けになっていらっしゃる方はもちろんですが、生徒さんのご家族の方もご参加いただけます。楽器はピアノにかぎりません。曲もクラシックにかぎりません。

伴奏者が必要であれば、こちらでご用意いたしますので、ご相談ください。

また、自己流で練習を重ねていらっしゃる方で、「音楽の集い」の準備として、単発のレッスンをご希望の方がいらっしゃいましたら、ぜひお力になりたいと思っています。ご都合にあわせ、1回、もしくは数回のレッスンをお組みいたします。一音会に在籍歴がなくとも、ご入会金他お手続きを省いて、レッスンをお受けいただけるようにしたいと思います。

本部まで、お気軽にご相談ください〔本部：03-5966-7711〕。



## ◆卒業生、藤田真央さんがチャイコフスキーコンクールで第二位に輝きました

一音会の卒業生である、藤田真央さんが、2019年6月、チャイコフスキーコンクールにおいて、ピアノ部門第二位となりました。チャイコフスキーコンクールは、世界3大コンクールの1つであり、4年に一度開催されるものです。

藤田真央さんは、1歳の時に教室に入会され、中学卒業までの期間、リトミック、絶対音感、ピアノ、作曲を一音会で学ばれました。5歳の時に長野県にお引越しをされましたが、長野県から東京まで、毎週、通ってくださっていました。一音会のホームページで、藤田さんが一音会時代の思い出を語っていますので、ご興味がある方はごらんください。

一音会時代、リトミックは夏目かおる先生、坂元美由記先生、鈴木ますみ先生、絶対音感は中根三奈子先生、森屋久美子先生、山路えり奈先生、ピアノは内澤志保先生、鹿戸一範先生、松山優香先生、作曲は塩澤彰一先生が指導に携わりました。

卒業生のご活躍を心からうれしく思います。



## ◆新刊「ラフマニノフ with Violin」が出版されました

一音会スタッフの普久原先生が、数あるラフマニノフのピアノ曲の中から、まだ誰も手がけていない曲を選び、ヴァイオリン曲として編曲した曲集、「ラフマニノフ with Violin」が、共同音楽出版社より発売されました。どうぞ、みなさんも楽譜売り場で手に取ってみてください。

## ◆スケジュールを今一度、ご確認ください

「ピアノ発表会」が終わると同時に、教室は夏休みです。一音会本部の夏休みは8月6日（火）～15日（木）です。その間は、お問い合わせにお応えできなくなりますことを、ご了承ください。夏休みあけのレッスンは、8月16日（金）からです。

お間違えのないよう、今一度、年間スケジュール表をご確認ください。皆さまにとって、楽しい夏休みになりますことを、心から願っています。

	日	月	火	水	木	金	土
7月	14 ○	15	16	17	18	19	20 ▲
	21 ◎	22	23	24	25	26	27 ■
	28 ○	29	30	31			
8月					1	2 発	3 発
	4 発	5 発	6 /	7 /	8 /	9 /	10 /
	11 /	12 /	13	14	15	16	17 ▲
	18 ◎	19	20	21	22	23	24 ■
	25 ○	26	27	28	29	30	31 ▲

\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)      電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、レッスンのある月曜日の午後7時～9時です。

